

環境パフォーマンス

ゼロ・エミッション化対策

産業廃棄物のゼロ・エミッション化

事業活動に伴って発生する廃棄物については、図のような処理システムを確立して再資源化率を高め、ゼロ・エミッション化を推進しています。

1999年度における産業廃棄物排出量は15.8万トン、うち処理・処分量は4.6万トン、外部リサイクル量は11.2万トンでした。このほか、有価物として4.2万トン売却しました。

廃棄物の有効利用に努めた結果、再資源化率は前年比4.5ポイント向上し、77.0%となりました。

今後は、さらに汚泥、廃プラ、廃油の再資源化に努め、再資源化率を2000年度90%に向上させます。

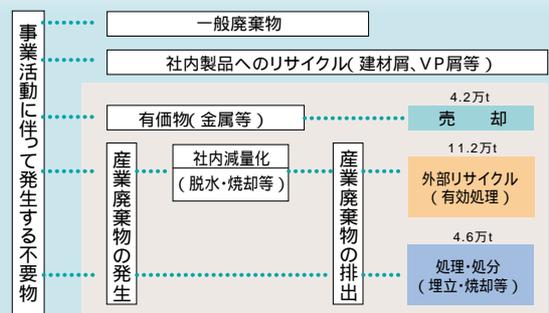
ゼロ・エミッション化の定義と達成目標

定義：社内・社外の埋立廃棄物「ゼロ」

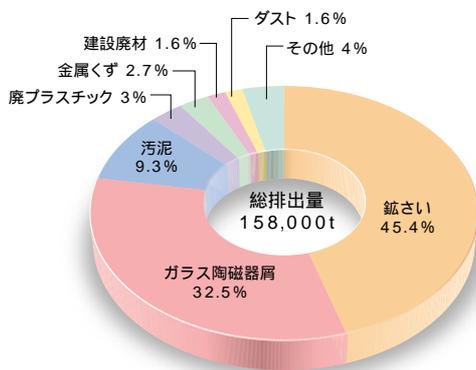
- ・「ゼロ」とは廃棄物の埋立を原則1%以下に削減することをいう。
- ・自らが排出事業者になっている廃棄物を対象にする。
- ・流通回収廃棄物は対象外とする。

達成目標：モデル工場(船橋工場・恩加島工場・尼崎工場) ……2000年度
 鋳物系・機械系製造所・工場 ……2003年度
 その他・工場 ……2005年度

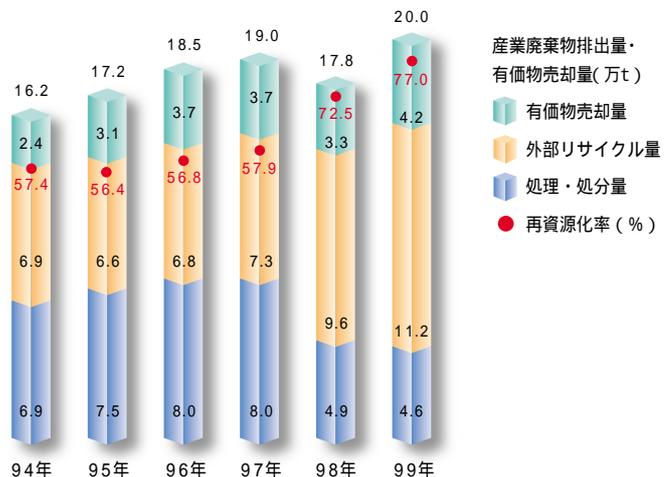
1999年度全社産業廃棄物排出量と処理フロー



1999年度全社産業廃棄物排出量と内訳



全社産業廃棄物排出量・有価物売却量・再資源化率推移



・産業廃棄物排出量 = 処理・処分量 + 外部リサイクル量
 ・再資源化率(%) = (外部リサイクル量 + 有価物売却量) ÷ (産業廃棄物排出量 + 有価物売却量) × 100

廃棄物の減量化とリサイクル

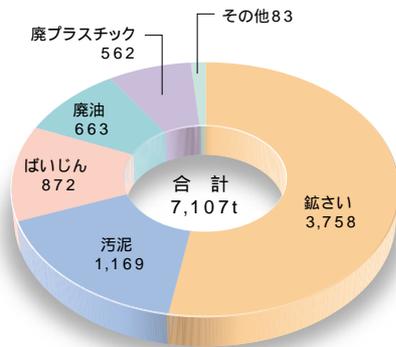
産業廃棄物の内、1999年度排出量の45.4%を占める鋳さいは、セメント原料や路盤材等として外部でリサイクルされています。減量化、リサイクル活動の結果、1999年度処理・処分量は対前年比0.3万トン減少しました。

また、産業廃棄物委託処理費用や原料等購入費の低減により、年間270百万円を超えるコスト低減効果を生み出しています。



鋳物砂再生装置(武庫川製造所)

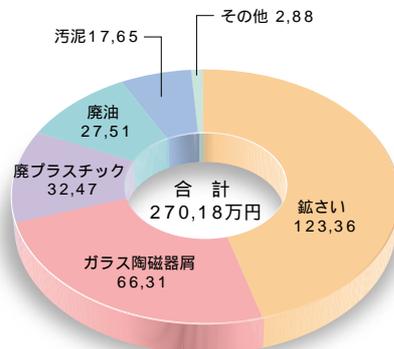
1999年度産業廃棄物減量化量と内訳



産業廃棄物減量化の内容

- 鋳さい
 - ・炉下さい、鋳物砂を粉砕・分別し再利用
 - ・サンドブラストからショットブラストへの変更
- 汚泥
 - ・汚泥の二次脱水による産廃の減容化
 - ・設備改善による原料リサイクル率の向上
- 廃プラスチック類
 - ・不良率低減活動による廃棄物発生抑制化
 - ・端材を破砕し原料へのリサイクル化

1999年度コスト低減効果と内訳



産業廃棄物減量化・外部リサイクルに伴うコスト効果内容

- ガラス陶磁器屑
 - ・外部リサイクルに伴う産廃委託費用の低減
- 鋳さい
 - ・外部リサイクルに伴う産廃委託費用の低減
 - ・鋳物砂リサイクルによる新砂購入費用の低減
- 汚泥
 - ・外部リサイクルに伴う産廃委託費用の低減
 - ・社内減量化(二次脱水)に伴う産廃委託費用の低減
- 廃プラスチック
 - ・製品へのリサイクルに伴う原料購入費の低減